



【韓国】 総合指数は 2.4%高と 3 週続伸、今週は国内コロナ「第 3 波」懸念が重荷か

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で 2.4%高と続伸。週明け 16 日は前営業日比 2.0%高の大幅高。節目の 2500 ポイントを大きく上回り、2018 年 2 月以来、およそ 2 年 9 カ月ぶりの高値をつけた。新型コロナウイルス用ワクチンの実用化期待から 13 日の米国株が上昇したことを受けてリスクオンの動きが強まった。韓国の 10 月の ICT（情報通信技術）関連製品の輸出量が前年同月比で 6%増加したことも好感された。17 日は利益確定売りで小幅安となったものの、下値は限られた。18-20 日は小幅ながら 3 日続伸となり、連日で 2 年 9 カ月ぶりの高値を更新。相場の先高観が買いを支えた半面、国内の新型コロナ感染「第 3 波」に対する警戒感が重しとなった。今週は高値警戒感から上値の重い展開か。26 日に韓国中銀基準金利が発表される予定。

▼指数チャート



【ロシア】 RTS 指数は 2.8%高と 3 週続伸、今週はワクチン開発の進展などが焦点

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で 2.8%高と 3 週続伸。中国経済指標の上振れ、新型コロナワクチンの開発の進展、原油高などが指数を押し上げた。指数は週明け 16 日に前営業日比 3.3%の大幅高。中国の経済指標の上振れに加え、米モデルナのコロナワクチンが高い有効性を示したことが好感されたほか、ブレント原油が 3.5%超上昇したことも追い風となった。その後は原油相場が高値圏で堅調に推移したが、欧米でのコロナ感染の拡大を受けもみ合った。指数は 18 日に約 3 カ月ぶりの高値で引け、週後半にやや調整した。個別では、エネルギーのロスネフチが 10.8%高、資源のルサルが 9.9%高、アルロサが 8.8%高となった一方、産金のポリュスが 5.4%安。今週は新型コロナワクチン開発やコロナ感染拡大、原油相場などが焦点か。

▼指数チャート



【ベトナム】 ベトナム指数は 2.5%高と 3 週続伸、今週は 1000 ポイントを試す展開

か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で 2.5%高と 3 週続伸。新型コロナワクチンの開発が進展するとの期待を背景に景気敏感株が買われ、指数は 2019 年 11 月 20 日以来の 1000 ポイントに迫った。週明け 16 日は大型株が利益確定売りに押され、指数は前営業日比 1.6%安と 4 営業日ぶりに反落。17 日はワクチン開発への期待を背景に指数は 1.9%高と反発した。その後は 20 日まで 4 日続伸し、990 ポイントで終了。1000 ポイントの大台が視野に入った。個別ではゴム製品のベトナム・ラバー・グループや鉄鋼のホア・ファット・グループ、エネルギーのペトロベトナム・ガスが 2 桁高となったほか、金融のベトナムバンクが 6.6%高、ベトインバンクが 3.9%高と上昇した。今週はコロナワクチン開発への期待を背景に節目の 1000 ポイントを試す展開か。

▼指数チャート





【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 2.0%高、中央銀行が 4 会合ぶりの利下げを決定

ジャカルタ総合指数は週間で 2.0%高と 7 週続伸。好地合いが続く中、じりじりと上値を広げた。週初の 16 日は、前日に 15 カ国が東アジア地域包括的経済連携 (RCEP) に署名したほか、10 月の貿易収支が市場予想から上振れた効果で指数は続伸。その後も買い優勢の展開が続くと、19 日は中央銀行が予想外の政策金利引き下げを決定し、過去最低水準となる 3.75% に設定したことが好感されて、5 営業日続伸した。20 日は場中に一時、5600 ポイントを超えたが、終値では反落して取引を終えている。今週は国内の重要イベントが少なく、新型コロナウイルスワクチンの開発状況などの外部要因が意識されそうだ。

▼指数チャート



【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 3.7%高、週末に終値で約 8 カ月ぶりの高値を更新

ストレーツタイムズ指数は週間で 3.7%高と 3 週続伸。堅調な値動きが続く中、週末に終値で 2800 ポイント台に乗せた。週初の 16 日は、前週末の NY ダウが上昇した流れで前営業日比 1.4%高と 3 日ぶりに反発。17 日は 10 月の非石油地場輸出が前年同月比 3.1%減と市場予想から下振れしたものの影響は小さく、指数はさらに 1.1%上昇した。18 日まで 3 日続伸した後、19 日は反落したが、20 日は反動で買い戻され、終値で前日比 1.3%高と約 8 カ月ぶりの高値を更新している。今週は 23 日の 7-9 月期の GDP 確定値に続き、26 日には 10 月の鉱工業生産が発表される予定で、市場予想から上振れすれば好材料。

▼指数チャート



【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 3.2%高、今週は 10 月の鉱工業生産に期待

SET 指数は週間で 3.2%高と 3 週続伸。おおむね堅調に推移した。週初の 16 日は、7-9 月期の GDP が前年同期比 6.4%減と市場予想から上振れた効果で、指数は続伸。17 日は小幅に反落したが、18 日は ASEAN 諸国の景気回復に対する期待感が高まり、前日比 1.1%高と反発した。19 日は前日に、3 月から続く非常事態宣言が来年 1 月 15 日まで延長されたものの、影響は軽微で続伸すると、20 日は米国での新型コロナウイルスのワクチン開発の進展が好感されて、前日比 1.5%高と終値で約 5 カ月ぶりの高値を更新した。今週は 25 日に 10 月の鉱工業生産が発表される予定。内容次第で 1400 ポイントを試す展開か。

▼指数チャート



【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.3%高、週前半に終値で 1600 ポイント回復

クアラルンプール総合指数は週間で 0.3%高と小幅に 3 週続伸。週前半は 1600 ポイントを挟んでもみ合ったが、後半は終始この水準を下回る値動きだった。週初の 16 日は、金融株を中心に買い優勢となり、指数は反発。17 日も好地合いが続く中、終値で約 3 カ月半ぶりに節目の 1600 ポイントを超えた。ただ、18 日に利益確定売りで反落すると、19 日は世界的な新型コロナウイルスの感染拡大が嫌気され、前日比 1.3%安と続落。一方、20 日は前日の NY ダウが反発した流れで買い戻された。今週は 25 日に 10 月の CPI が発表される予定で、前月まで 7 カ月連続で前年の水準を下回った指数が上昇に転じるかが焦点。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するにしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。